

劣化が進む高速道路

NEXCO東日本が管理する高速道路の約4割が、開通から30年を超えており、老朽化や劣化が進行している。これらの抜本的な補修をするのが「高速道路リニューアルプロジェクト」だ。首都圏の主要路線である東京外環自動車道においても、一昨年から橋の床版の取替えをするリニューアル工事が行われている。

目標は0.3%をゼロにすること

「0.3%の重量超過車両が道路橋の劣化に与える影響は全交通の約9割を占めます。一部の重量超過車両が道路に大きな影響を与えることがわかります」

そう教えてくれたのは、加須管理事務所かすこの松村裕治車限隊長だ。通行する車両の大きさや重さの最高限度は法令（車両制限令）で定められている。この法令違反車両を取り締まるのが、通称「車限隊」である。

データと経験を活かして

車限隊の任務は大きく2つある。道路の構造保全と交通の危険を防止することだ。そのために日々、11名の隊員が現場に出ていく。

「われわれが担当するのは主に埼玉、栃木、茨城エリア。東北道や常磐道

の玄関口を抱えているせいか、違反車両も多いんです」

広範囲にわたるため、取締りができるのは1日に2か所程度。時期ごとの利用傾向などを分析し、松村隊長が取り締まる場所を計画する。

抑止効果を最大化するために

「料金所手前にいる監視役の隊員が違反の疑いがある車両を瞬時に見分け、料金所ゲートを出たところに待機している隊員に伝達。待機している隊員が取締りスペースへと誘導します。通行許可の確認を行い、違反

が確定したら、次のICで降りてもらうなど措置命令を傳達します。さらに、車両制限令で定める車両総重量の2倍を超えた場合は警察への告発の対象となります」

取締りは主に料金所入口で日々実施しているが、それでも全エリアは監視できない。

「いろいろな場所で取り締まることで、抑止効果を最大化できます。だから毎日違う場所で行きまわります」道路の劣化を防ぎ、安全を守るため、今日も車限隊は現場に向かう。



ハイウェイを支える人々

Vol. 36

高速道路の裏側に潜入

高速道路の安全な環境を守るためには、日常的な管理・運営や保全活動が不可欠です。今回はその重要な役割の一端を担う、車限隊を訪ねました。



東日本高速道路株式会社
関東支社 加須管理事務所 車限隊長

松村裕治さん



1. 1日の始まりは朝礼から。装備のチェックも欠かせない
2. 減速指示をする。該当車両以外も減速させるのがポイント
3. 落下物による事故防止のため積み荷をチェック
4. 違反内容を理解してもらい、再発を防ぐことが最重要任務